

IV 観 光

1 概 況

令和5年度における本県の観光者数は、約3,866万4千人となり、令和4年度と比較して約263万人増、率にして107.3%となった。

本県の観光者数は、調査を開始した昭和38年度以降、空港や高速道路等のインフラ整備の進展に伴い、概ね順調な伸びを示し、平成4年度には初めて4,000万人を超えた。その後は、景気の低迷等の影響を受け減少傾向が続いたが、平成16年度に「おいしい山形」デスティネーションキャンペーンを展開し、約4,226万9千人と当時の最高を記録した。それ以降は、再び減少傾向が続くなか、平成21年度は「天地人」、「おくりびと」効果とともに、高速道路のETC割引の効果もあり、4,100万人を超えた。

平成23年度は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、交通機関の一部途絶や、出控え、東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害による大きな影響により、3,500万人台と大きく減少したものの、その後の官民一体となった誘客の取組みにより観光者数は回復し、平成26年度には、山形デスティネーションキャンペーン（山形DC）の展開をはじめ、東北六魂祭、国際青年会議所アジア太平洋会議（JCI ASPAC）山形大会及び全国育樹祭などの取組みにより、初めて4,500万人を超え、その後も山形DCの効果を活かした春や冬の「山形日和。」観光キャンペーンの展開や、県内各地の雪まつり・イベント等の新たな開催、「美食・美酒県 山形」の積極的な情報発信を進めてきた。

しかしながら、国内における新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度は2,700万人台と大幅な減少となった。その後も、新型コロナウイルスの影響が長引く中で、令和3年度から令和4年度には、東北デスティネーションキャンペーン（東北DC）、南東北春の観光キャンペーン（ポストDC）の展開、県内での宿泊・日帰り旅行の割引キャンペーンや「全国旅行支援～やまがた旅割キャンペーン～」等の観光需要喚起策の展開により、観光復活に向けた誘客の促進に取り組み、令和4年度は3,600万人台まで回復した。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことによる観光需要の高まりや、県内イベントの制限のない形での開催に加え、インバウンドの大幅な増加などにより、昨年度と比較し、約263万人（約7.3%）の増加となった。

表4-1 本県観光客入込数の前年度比較

(単位：千人)

区分	令和5年度	令和4年度	対4年度増減率	対4年度増減
観光者数	38,664.0	36,034.3	7.3%	2,629.7

資料：県観光文化スポーツ部「令和5年度 山形県観光者数調査」

2 県内・県外客別観光者数の動向

観光者を県内客・県外客別にみると、県内客は約 2,215 万人(対4年度 4.0%(約 85 万 8 千人)増、構成比 57.3%)、県外客は約 1,651 万 4 千人(対4年度 12.0%(約 177 万 2 千人)増、構成比 42.7%)となっている。

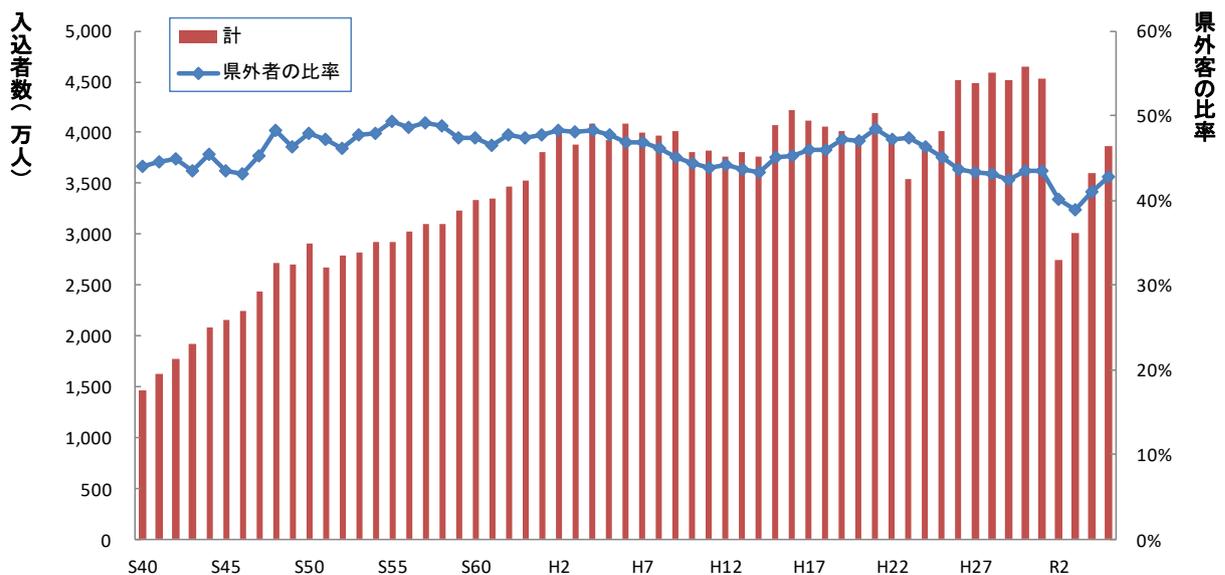
表4-2 県内客・県外客別観光者数の前年度比較

(単位:千人)

区分		令和5年度	令和4年度	対4年度増減率
観光者数		38,664.0	36,034.3	7.3%
内 訳	県内客	22,150.2	21,292.2	4.0%
	県外客	16,513.8	14,742.1	12.0%

資料:県観光文化スポーツ部「令和5年度 山形県観光者数調査」

図4-1 山形県の観光入込み客数と県外客の構成比



資料:県観光交流拡大課調べ

3 観光地類型別観光者数の動向

観光地類型別の構成比は、「温泉観光地」が約 812 万 6 千人（構成比 21.0%）、「道の駅」が約 853 万 8 千人（構成比 22.1%）、「その他の観光地」が約 1,303 万 7 千人（構成比 33.7%）となっており、これらの3類型で全体の76.8%を占める。

令和4年度比では、「スキー場」を除く全ての観光地類型で観光者数が増加した。

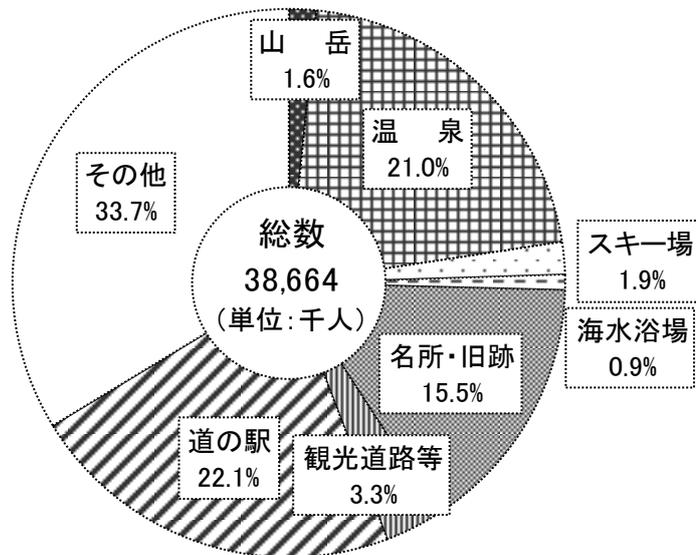
表4-3 観光地類型別上位の前年度比較

	令和5年度	構成比	令和4年度	構成比
第1位	その他の観光地	33.7%	その他の観光地	33.2%
第2位	道の駅	22.1%	道の駅	23.2%
第3位	温泉観光地	21.0%	温泉観光地	21.1%

資料: 県観光文化スポーツ部「令和5年度 山形県観光者数調査」

※「その他の観光地」には、「産直施設」、「観光物産施設」、「美術館・博物館」などが含まれている。

図4-2 観光地類型別構成比(令和5年度)



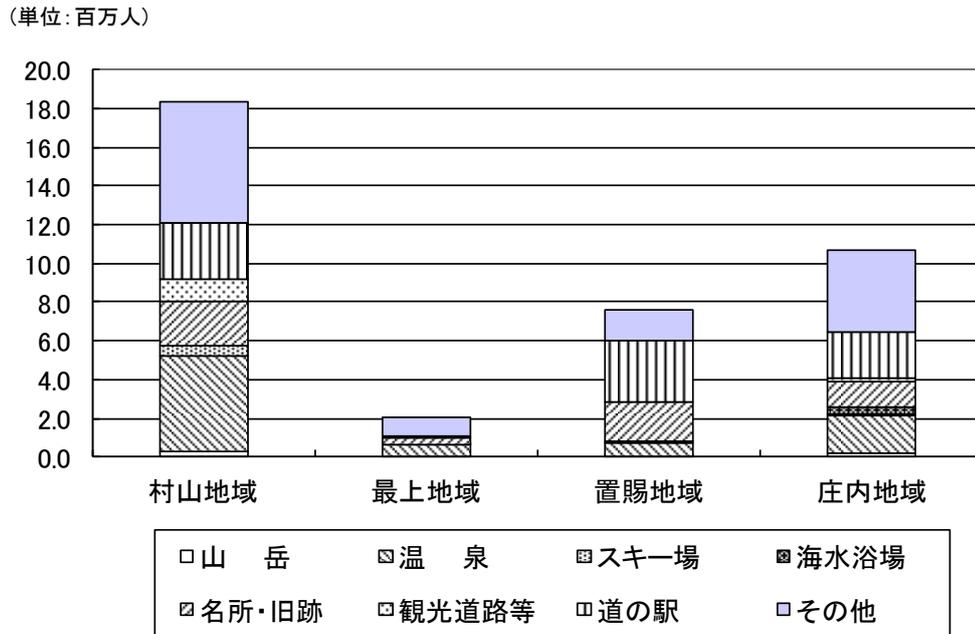
資料: 県観光文化スポーツ部「令和5年度 山形県観光者数調査」

4 地域別観光者数の動向

県内で観光者数の最も多い地域は、村山地域の約 1,833 万 1 千人（対 4 年度 8.7%増、構成比 47.4%）、次いで庄内地域の約 1,065 万人（対 4 年度 7.8%増、構成比 27.5%）、置賜地域の約 764 万 1 千人（対 4 年度 4.8%増、構成比 19.8%）、最上地域の約 204 万 3 千人（対 4 年度 1.9%増、構成比 5.3%）の順となっている。

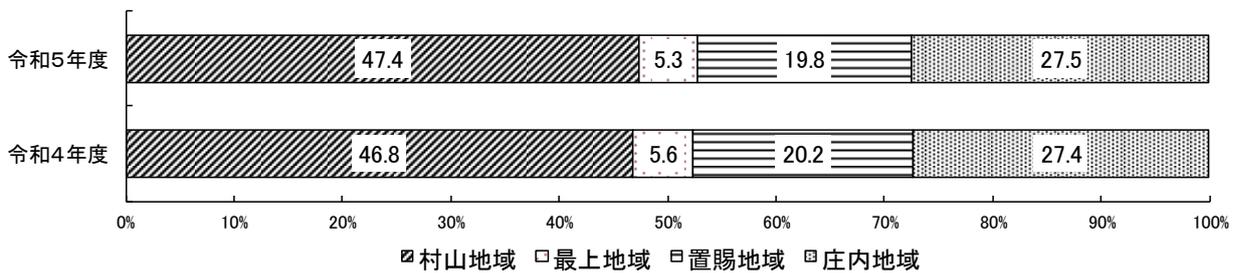
令和 4 年度比では、全地域で観光者数が増加した。

図4-3 地域別観光者数



資料:県観光文化スポーツ部「令和5年度 山形県観光者数調査」

図4-4 地域別観光者数の構成比



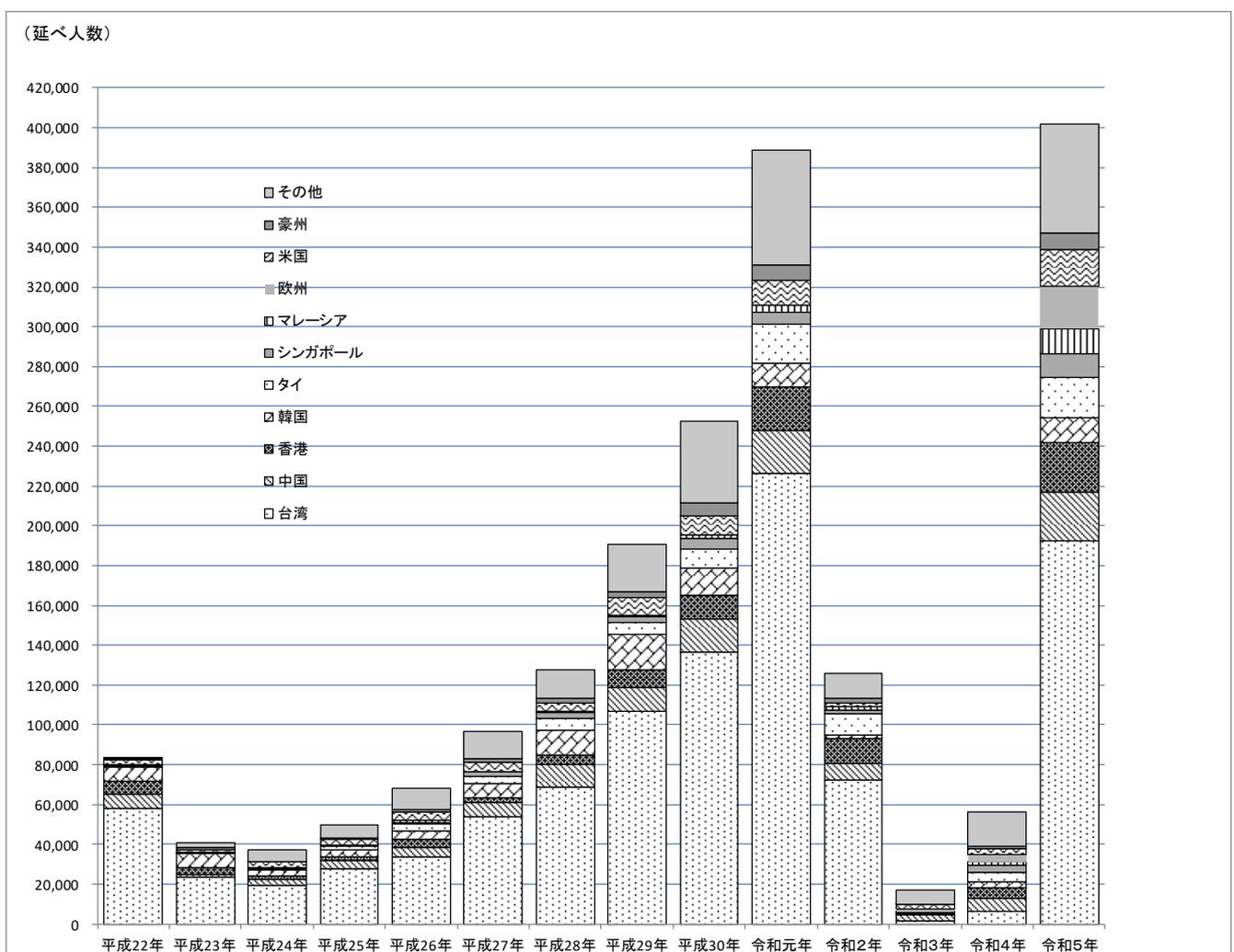
資料:県観光文化スポーツ部「令和5年度 山形県観光者数調査」

5 外国人旅行者の状況

県の「外国人旅行者県内受入実績調査（令和5年1月～12月）」によると、山形県内の外国人旅行者受入延人数（宿泊者数＋立寄者数）は401,948人（前年増減率617.1%増、345,897人増）であり、現在の調査方式になった平成25年以降、過去最高となった。

国・地域別の状況を見ると、台湾からの受入延人数は192,187人（前年増減率2,940.5%増、185,866人増）、中国からの受入延人数は24,912人（前年増減率267.4%増、18,131人増）、香港からの受入延人数は24,674人（前年増減率408.5%増、19,822人増）、タイからの受入延人数は19,785人（前年増減率301.3%増、14,855人増）、韓国からの受入延人数は12,732人（前年増減率298.6%増、9,538人増）であった。

図4-5 外国人旅行者県内受入実績の推移



- ① 宿泊者数:観光庁宿泊旅行統計(確定値、従業者数10人以上の施設が対象)
- ② 立寄者数:立寄35市町村114地点へのアンケート調査 ※県観光交流拡大課調べ(確定値)
- ③ 「欧州」はイギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スペインの合計。
- ④ 「その他」は国籍不明を含む。

6 山形県の宿泊者数

(1) 延べ宿泊者数

観光庁の「宿泊旅行統計調査（令和5年1月～12月）（確定値、従業者数10人未満の宿泊施設を含む）」によると、山形県の宿泊者は、約457万人泊であり、前年に比べ13.0%増加した。

全国での位置付けは、全国34位（前年32位）、東北4位（同5位）であった。

(2) 外国人宿泊者数

観光庁の「宿泊旅行統計調査（令和5年1月～12月）（確定値、従業者数10人未満の宿泊施設を含む）」によると、山形県の外国人宿泊者数は約17.9万人泊であり、前年に比べ590.3%増加した。

全国での位置づけは、全国37位（前年38位）、東北5位（同4位）となっている。

図4-6 都道府県別延べ宿泊者数

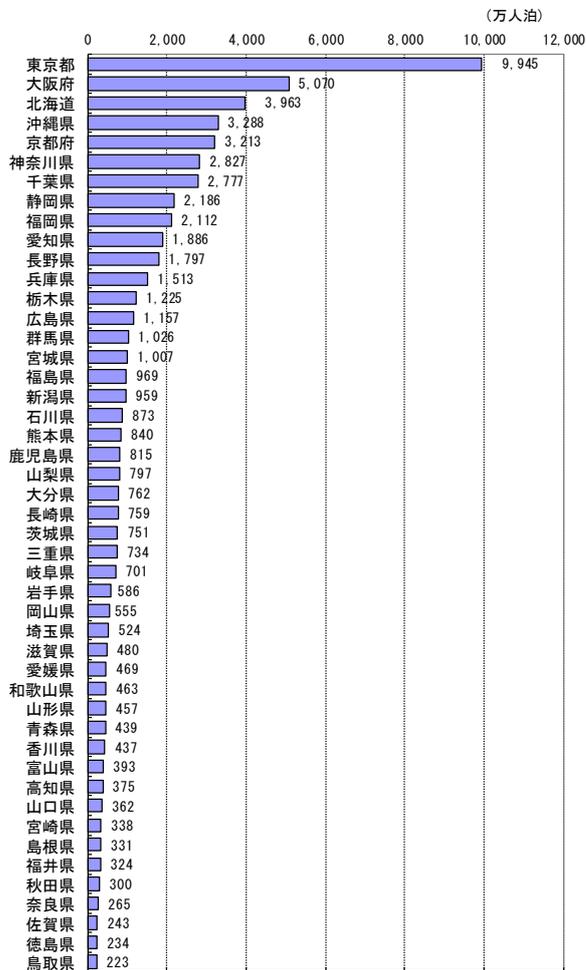


図4-7 都道府県別外国人延べ宿泊者数



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」（確定値、従業者数10人未満の宿泊施設を含む）